

# 社会福祉法人 本郷の森 令和元年度 事業報告書

## 『本富士生活あんしん拠点』(本富士地区地域生活支援拠点)

4月より文京区より委託を受け、地域生活支援拠点事業を開始した。正式な開所は10月とし、9月までは区内各所で研修を受ける期間とした。職員はB型事業より1名が異動、計画事業より1名が兼任となり、1.5名体制でスタートした。事業費は当初のものは抜けている部分もあり、最終的に今年度は14,766,000円で受諾している。

### ● 研修

研修先としては、包括支援センター(高齢)、社会福祉協議会(地域・権利擁護)、基幹相談支援センター、文京槐の会(知的・身体・移動支援・短期保護)、エナジーハウス(地域活動支援センター)、あかり(地域活動支援センター・ショートステイ)、保健サービスセンター(デイケア・母子・難病・精神保健福祉相談)、障害福祉課、予防対策課、子ども家庭支援センター(虐待)、教育センター(療育・相談)などに協力をいただき、70日間ほど所外研修を行った。石橋はアウトリーチ支援研修なども受講している。

多機関連携の重要性や地域の課題、各機関における役割や限界を感じる事ができた。

包括からは高齢の方へ介入時の家族問題(8050や引きこもりなど)、社協からは地域の居場所づくりにおける連携の問い合わせもあり、協働や参画など進めている。

### ● 事業実績

10月より正式に事業開始となった。相談としては基幹相談支援センターとケース引継ぎ会議を行い、5ケース程度の協働ケースから始まり、包括支援センターなどからもケースを紹介されるようになっていく。障害種別としては精神障害が多いが、知的、身体や高齢との重複のケースもある。地域づくりとしては町会などへのあいさつ回りや社協の地域の居場所づくり会議などへの参加もしている。

参考

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談	7	14	36	95	34	39	225件
他機関連携	15	28	75	98	37	48	301件

### ● これから

来年度は職員が1.5名より2.5名に増員される。それに伴い相談の強化と共に地域づくりなどにも積極的に関わっていくことになる。また、文京区内の他地域での事業スタートも控えており、これまでの本富士地区での活動を、区や他事業所と共有していくことも重要になっていく。